



いせから生涯学習 ボランティア協会ニュース

第 279 号 2024 年 5 月号

会長 三上 利榮

伊勢原市三ノ宮 362-6

—学習サークルの次のステージを求めて—

生きるということとは？

逢坂伸一

〈開発教育という手法での事例〉

身近な課題改善を進めていくことによって地域的、さらに国際的な課題解決の必要性に気づくという学習方法であり、学校教育の現場に限らず、成人グループの課題解決学習方法の一つでもあります。

以下は、私の人生経験を参考に、地域の生活意欲改善につながるであろうと思われる開発教育プログラムを考えてみたものです。

私の高校時代はずいぶん昔のことですが、前半は野球に没頭し、後半は演劇活動に明け暮れていたことを思い出しております。特に、演劇の発表会会場が県立図書館講堂であったことから、図書館で書籍を借り出すことよりも、なぜ、図書館に講堂が併設されているのだろうかという疑問など、読書よりも図書館の歴史の方に興味を持ち、老齢となった今も、公民館や図書館、資料館の未来を夢見ているような気がしております。公民館や歴史資料館の大切さにも気づき、課題は何か、前進するために阻害していることは何か、取り除くために為さねばならないことは何か、などについて仲間同士で学び合い、解決することが私たちの開発教育であろうと思うところです。(国際エリアや宇宙規模までは語れて

いませんが)

私たちの仲間一人ひとりの人生上の歴史を見つめなおし、次代を担う子どもたちの生きる環境の中で、今以上に豊かで幸せな暮らしが可能になるためのヒントを作り出すこともこの手法での解決が望めそうなのです。そのためには、仲間同士の日常の話し合いを深め、交流のためのネットワークを強化し、さまざまな団体、行政などとのコラボレーションの重要性を確認し、実践すべきであろうと思っております。

野上弥生子さんの作品の中に、“のんびんだらりんと長生きをした人と、何かを求めながらも若くして世を去った人のいずれが人として正しいのか？”という一文があり、私もその答えを自問自答している最中です。



第 19 期いせはら市民大学講座アンケート結果

第 19 期いせはら市民大学・楽しい講座についてアンケートを実施しました。アンケートは無記名の任意提出とし、全受講生 48 名のうち 26 名の方に回答頂きました。

1. 講座へのアンケート結果の集約数値について

基本 11、補講 6 の全 17 講座全てに対して、「良かった」「まあまあ」「良くない」のいずれかで評価・回答をお願いしました。以下、アンケート結果一割合の順です。

「良かった」	200 名	—	71.1%	「まあまあ」	74 名	—	26.3%
「良くない」	7 名	—	2.5%	「無回答」	161 名		

2. 講座全般への意見について

(1) 内容

基本講座については概ね高評価を頂きましたが、補講に関しては参加者数も若干減少傾向にあったため、意見・評価も少な目でした。その中で、「伊勢原を知りたい」「健康や介護関係」には関心の高さが見受けられました。また「市民音楽会」への参加協力に手応えを感じることができました。

(2) 改善点

昨期同様班編成を実施しましたが、まだまだ十分な交流を図るには運営側の努力が必要との反省がありました。また高齢の受講生にも配慮した郊外講座を考えていかなければいけないと思いました。

(3) 次期への要望

健康や歴史関係には根強く希望される意見がありますが、参加型の講座への希望も頂いています。以下複数回答があった講座の抜粋です。

①防災・地震 ②文化・芸術 ③健康 ④福祉 ⑤歴史 ⑥市内の産業（見学を含む）
⑦校外学習（2部編成等） ⑧救命講習 ⑨手作業等の体験型 等

3. まとめ

開講式前 5 月には新型コロナウイルス感染症も 5 類へと移行し、マスク着用・飲食も解禁となりましたが、高齢者の多い市民大学としては多少の配慮はありました。しかし修了式での合唱や茶菓での懇親会は楽しいものでありました。次回参加をお約束頂いた皆様には感謝申し上げます、アンケートにもご協力頂きました皆様に厚くお礼申し上げます。

20 期の市民大学開講に向けて準備を進めてまいります。 （市大実行委員一同）

昔話(ハイウェイ編)5 — 多重轢過事件 その1

私はハイウェイパトロール隊の一員として、現場隊員では取り扱いが困難な特殊事件事故専門の、班長以下7名の《機動小隊》員として従事していました。ある雨天の夜、現場当直員から自宅に「〇〇IC(インターチェンジ)で、歩行者が何台かの車両に轢過(ひかれること)され、程度4(既に死亡)の状態、現場派遣願います」の一報。自宅近くの分駐所に立ち寄って出勤服に着替え現場ICに急行、既に当直員によって3車線が規制され先の路肩に本件事故の当時車両と推測される何台かの車両が停止していました。

先着していた当直勤務員に状況説明を受けようとしたところ、突然足が前方に滑って後方にすってんころり、後頭部も強打しましたが幸いにもヘルメットを装着していたので大事には至らなかったものの、何と転倒の原因は、夜間であつ雨天で滑りやすい路面に割損散乱していた《皮膚油混じり頭蓋骨》に気付かなかつたのです。

改めて当直勤務員から発生状況について信じられない説明を受けたのです。

それは、正当な理由なく立ち入りが禁止されているハイウェイに、当該当事者である『歩行者』

が多数の車両が高速走行している本線車線に立ち入り進入したため、多数の車両に引かれる本件多重轢過事故が発生したのです。

当時の交通事故の法律である「刑法第211条『業務上過失致死傷罪』(現在は「自動車運転過失致死傷罪」)により、自ら申告してきた6台の停止車両の運転者から状況の説明を求めたところ、連続走行中に走行車線に横臥(倒れて横になった状態)していた被害者の発見が遅れ、自車を乗り上げさせ轢過したとの説明を受けたので車両を詳細に見分したところ、全車両とも前部バンパーやボンネット等には凹凸の衝突痕は確認できなかったものの、車体下部のエンジン部等を保護する「スカート」と称される鋼鉄製鉄板や、当時の乗用車はまだ床下を通すプロペラシャフトという回転翼で後輪を動かすマニュアル車が多く、その突起物に巻き込んだ際に発生したと思われる擦り痕や血痕・肉片等が多数付着していたことから、最低でも現場にいた車両による多重轢過交通事故と認定しました。

また、被害者が横臥になっていた状況から先に事故を発生させて立ち去った車両も存在するとして、困難を承知の上で「ひき逃げ事件」として継続捜査を開始しました。(続く) T.A.

Qクイズ

次の四字熟語には、それぞれ1文字だけ誤った漢字があります。その字を直して、正しい四字熟語を完成させましょう。

① 呉越同州 ➡

--	--	--	--

仲の悪い者同士や敵味方が、同じ場所や境遇にいること

② 快盗乱麻 ➡

--	--	--	--

物事を非常にあざやかに処理し解決する事

答えは次ページ

小田原城の桜

4月10日に小田原にお花見に行ってきました。前日が大風のような風雨で桜が散ってしまっていないか心配だったのですが、心配をよそに満開でした。

今年は、寒い日が続きなかなか開花しなかったのですが、急に暖かくなり、待ちかねたように一気に咲いたので、咲いているお花の数が多くて見事でした。

お城と桜も、お濠と桜も、お濠沿いの道の桜のアーチも素晴らしかったです。



(M.O)

※株式会社芸文社 はつらつ元気 脳活ドリル 能力体操 VOL. 2 を参照

クイズの答え: ①呉越同舟 ②快刀乱麻

役員会議予定表

No	月 日		開催曜日		開始時間	行事内容	該当者	場所
			番号	曜日				
1	6	13	第2	木曜日	13時	専門部会	該当役員	中央公民館会議室B
					14時	事務局会議		
2	6	27	第4	木曜日	13時	専門部会	該当役員	中央公民館会議室B
					14時	役員会	役員全員	
3	7	11	第2	木曜日	13時	専門部会	該当役員	未定
					14時	事務局会議		
4	7	25	第4	木曜日	13時	専門部会	該当役員	未定
					14時	役員会	役員全員	

第25回総会のお知らせとご案内

“知力・体力を養いながら仲間と共に、今まで社会から得たものは社会に還元する”をスローガンに活動を開始。生涯学習を推進して25年を迎えました。節目の年でもあります本年度の総会にお越しいただき、新しい活動の発展のために皆様の思い等をお聞かせ頂けると幸いです。

日時：令和6年5月30日（木）13時30分～

場所：伊勢原市中央公民館会議室A